

## 事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「安全な農産物生産を目的とした重金属汚染土壌のバイオリメディエーション技術の開発」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:独立行政法人 農業環境技術研究所 土壌環境研究領域

主任研究員 牧野 知之

2-2. 中国側研究代表者:中国科学院 土壌研究所 部長兼教授 Luo Yongming

3. 総合評価:( B )

4. 事後評価結果

### (1)研究成果の評価について

両国の研究スキルやシーズを相互補完できる研究分担計画により、相互支援をしながら研究を進めたことは評価できる。新規のカドミウム高吸収植物を得ることはできなかったが、既存のカドミウム高吸収植物を用いて重金属吸収の基礎データを収集できた。一方、日本側が現有する有機ヒ素分解菌にゲノムシャッフリングを適用し、分解能を向上した菌株を取得できたことは評価できるが、中国側から提供された土壌試料から目的の分解菌の単離ができなかったのは残念である。また、中国での汚染現場への適用についてもう少し研究を進めてほしかった。なお、研究項目・内容が当初の計画から変更されているが、変更理由を見るかぎり、当初の計画における検討と見極めが甘かったと言わざるをえないのは残念である。

### (2)交流成果の評価について

日本からも1カ月ほど研究員を派遣して共同研究を実施したことは本事業の意図からも成果があったといえる。従来から機関相互の研究協力が行われているので、継続的な交流が期待できる。今後も遺伝子資源の提供を受けることが可能となるように、今回築かれた関係を維持・発展させてほしい。

### (3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

共著論文、両国研究者連名による学会発表があり評価できるが、ワークショップ、セミナー、シンポジウムなどの開催回数が少ないのは残念な結果である。なお、実用化に向けて解決すべき課題と研究課題および本研究の位置づけを明確にした上で、本研究のそれぞれの成果がどのような形で社会への波及効果をもたらすかという記載があれば、さらに良かったと思われる。